

一日

宮本百合子

青空文庫

降りたくても降れないと云う様な空模様で、蒸す事甚い。

今朝も早くから隣の家でピアノを弾いて居るが氣になつて仕様がなない。

もう二三年あの人、此処に別荘を持つて居て、ついぞ琴の音もした事がないのに、急にピアノがきこえて、それが又かなりよい音だ。

おとといの晩から、何かして居ても、聞えると、一寸手をとめて耳をすます。

食堂の出まどに腰をかけて、楓の茂みの中から響いて来る音に注意すると、Haydnのものらしい軽い踊る様な調子がよく分る。

弾手は男かしら女かしら。

女の人にしては少し疎雑な手ぶりがあるが、いつの間にとりよせたか、来たかしたんだろう。

私は、そんな事をかなり真面目に考えて居た。

その音をきいて居ると、急に、自分のピアノのE♭のシャープの出ないのが気になり出す。

雨がつついて居る時分からあなり出したので、天気がなおるとよくなるまいものでもないと放って置いたけれ共、一向によくない。

今日はどうしても高井にたのまなければならぬからと思つて電話をかける。

声の太い頭の鈍そうな男が出て、私が早口だと見えて、

「おそれ入りますが、どうぞ、

もう少しゆつくりおっしゃって下さい。

と云う。

主人が旅行中で十四日後でなければと云う。

それでよいから、次^{ついで}手に、マンドリンの第一の絃を二本持つて

来て下さいと云ってやる。

楽器屋や本屋の取次が、はきはきして居ないのはほんとうに氣持が悪いと思う。

早口で云われるとききとれない様な頭では駄目じゃあないかと思ったりして居ると、母が寿江子の頭がひどいから来て見ろと云

う。

ほんとにまあ可哀そうに、頭の地一杯に何だか、かさぶたの様なものがついて居る。

産れた時すぐオーレーフル油で拭いてやるべきを、あの看護婦がしなかったのだと云う。

口の中の消毒が完全でなくて、「がこうそう」が出来そうにまで、舌苔の様なものをつけさせた上にこんな事までして行つたかと思うと、あの髪の毛のちりちりの四角ばった頭の女が憎々しく思ひ出される。

母が何か少し差図めいた事を云うと、すぐ変な顔をし万事のみこんで居ますと云う様な態度が、居る時からいい感じを与えて居

なかった。

一やかんもの熱湯を髪の毛の癖なおしにつかつて、一時間位鏡の前に座つて居た彼の女をよく云うものはない。

頭の地にすっかりオレーフル油を指ですりつけて、脱脂綿で、母がしずかに拭くと、細い毛について、黄色の松やにの様なものがいくらかでも出て来る。

小半時間もかかつて、やっと、しゃぼんで洗いとると今までとは見違える様に奇麗になつて、赤ちやけて居た髪もすっかりつやがよくなつて来た。

よつぽど気持がいいものと見えて目をつぶつて、フンとも云わないで居たのがその勢で、すっかり眠つてしまった。

あんなに可愛い可愛いと口ぐせの様に云つて居ても、他人はやっぱり他人だと思う。

四時頃になつて少し涼しくなつてから、わきに濡手拭を引きつけて、汗をふきふきこれを書き出す。

段々氣が入つて、ペン先の中に皆自分がこもってしまった様になると、背中の方から段々暑さが忘られて来るのが真に快い。

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集 第三十卷」新日本出版社

1986（昭和61）年3月20日初版発行

※1915（大正4）年8月11日執筆の習作です。

入力：柴田卓治

校正：土屋隆

2008年2月28日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.waozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランテニアの皆さんです。

一日
宮本百合子

2020年 7月12日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>